

誓いの言葉

柳 愛乃香

本日は私たちのために、このような盛大な式典を催していただき、誠にありがとうございます。杉本市長を始め、ご臨席の皆様、そしてこのはたちの集いに携わってくださった全ての皆様に、参加者を代表して厚く御礼申し上げます。

実は私は、ここい〜らで代表の言葉を務めるのは初めてではありません。中学卒業時に「山崎こども教育賞」を受賞し、受賞者を代表して式辞を担当致しました。それから早 5 年が経とうとしていますが、この 5 年間で時代や世界が目まぐるしく変化しました。まず、元号が平成から令和に変わりましたし、「SDGs」や「多様性」といった言葉が浸透したのもここ数年です。そして何より、新型コロナウイルスが大流行しました。その一方で、ネット環境さえ整えば、誰でも世界中とつながることができ、スマホやパソコン一台でビジネスを始めることができる時代にもなりました。

私自身の5年間を振り返りますと、高校からチアリーディングという新たな競技に挑戦し、未経験者ながらも部長という役割を任せられ、仲間と共に全国制覇を達成しました。高校卒業後は、18年間生まれ育ったこの牧之原市を離れ、横浜の大学に進学したことで、生活する環境が一変しました。大学では、中学や高校の学びとは違い、社会の枠組みから一歩外に出て、世の中の常識を疑い直す社会学という学問や、自分のバックグラウンドに韓国の歴史があることから、多文化共生の研究に力を入れています。そして、コロナウイルスが収まりつつあるここ 2 年で、8 カ国以上の国に自ら足を運び、自分とは異なる文化や宗教、価値観に触れることで、これまでの当たり前が当たり前ではなくなる多くの体験をしてきました。もちろん今まで、失敗や挫折、困難なことに直面する場面もありましたが、家族を始め、多くの方々に支えられ、乗り越えてくることができました。それらの経験全てを通して、私の考え方や世界の見方は、大きく、大きく変わっていきました。

このように、世界も自分自身も変化してきましたが、私の中には決して揺らぐことなく変わらないものがあります。それは、客室乗務員になるという目標です。世界中を飛びまわる客室乗務員は一見、地元牧之原市とは関わりのない職業のように思われるかもしれませんが、しかし、世界を舞台に活躍する人材となり、出身を聞かれた際には、胸を張ってここ静岡県牧之原市だと答え、私、柳愛乃香という人間を通して牧之原市に興味を持ってもらうこと、世界と牧之原市をつなげる架け橋になることをここに宣言します。

Spread our wings and fly to the bright future!

ご清聴ありがとうございました。